

## 環境に関する基本方針・施策

(環境の整備及び保全に向けた考え方)

### 1. 必要性和背景

名古屋港は、庄内川や木曾三川などの大河川やその他の中小河川が流入する遠浅の海であり、古くから浚渫と埋め立てを繰り返しながら港湾整備を進め、地域の産業・経済のみならず我が国の経済の発展に貢献してきた。今後も地域の産業を物流面から支えるための港湾整備が必要とされる一方で、近年の地球環境問題により、温室効果ガス削減をはじめとした環境負荷の軽減、生物多様性に配慮した自然環境の積極的な保全とともに、人々が水辺で親しむことができる親水空間の拡充が求められている。

名古屋港が将来にわたって社会の多様な要請に応え、持続可能な発展をしていくためには、港湾機能と環境との共生を実現することが必要である。

### 2. 計画の方向性

良好な港湾環境の形成に向けて、以下の基本方針に基づき、環境施策に取り組んでいく。

#### 【基本方針】

##### ○港湾環境の維持・回復・創造

周辺地域や海域への環境にも配慮し、身近で親しまれる港湾環境の創出とともに、貴重な自然環境の保全、生物多様性への配慮、水環境の改善により、「港湾環境の維持・回復・創造」を図っていく。

##### ○港湾における環境負荷の軽減

大気環境対策や地球温暖化対策を推進するほか、資源循環に取り組み、「港湾における環境負荷の軽減」を図る。

#### 【施策展開】

##### (1) 大気環境、地球温暖化

- ・ 港湾活動による大気環境への負荷軽減のため、臨港道路の整備等による円滑な交通ネットワークを確保し、交通渋滞の緩和を図っていく。  
また、物流の状況を見極めつつ、モーダルシフトの推進等の環境負荷が小さい効率的な物流体系の構築により、温室効果ガスの削減に取り組んでいく。

- ・ 今後の技術革新の動向などを踏まえ、環境配慮型の施設の導入により温室効果ガスの削減に取り組んでいく。
- ・ 温室効果ガスの削減に寄与するため、太陽光などの再生可能エネルギー導入に努めるとともに、その取り組みを行う事業者へ協力していく。
- ・ 大気環境への負荷軽減を図るとともに、温室効果ガスを削減する吸収源として、港湾緑地を拡充する。

## (2) 水環境

- ・ 港湾整備に伴い失われた海域環境の修復のため、海浜の整備や環境配慮型護岸の導入により生物の生息空間を創出し、自然が本来有する水質浄化機能の回復を促していく。
- ・ 閉鎖的水域では、水の循環を促進するなど水質の改善を図る。
- ・ 漂流ゴミの回収等により、良好な海域環境を維持する。
- ・ 伊勢湾再生推進会議をはじめ、多様な主体と連携した海域環境改善に向けた取り組みを推進していく。

## (3) 自然環境

- ・ 現存する干潟等の貴重な自然環境を保全し、健全な状態で次世代へ継承していく。
- ・ 緑地の適正な配置によって緑の連続した空間（緑のネットワーク）を形成し、生物多様性に配慮した面的な空間を創出していく。
- ・ 環境学習の場として、自然環境の活用を図っていく。

## (4) 親しまれる港づくり

- ・ 訪れる人々にとって、港が身近で親しみを持つことができるよう、港湾機能との調和を図りながら、港湾緑地の拡充に取り組んでいく。

## (5) 廃棄物・資源循環

- ・ 港湾の開発・機能維持に伴い、今後も継続的に発生する浚渫土砂については、埋立用材としての有効利用のみならず、海域環境修復への利用等、持続可能な浚渫土砂の利用方法を検討していく。
- ・ 都市側からの要請による一般・産業廃棄物の処分場確保は、港湾環境への影響を見極めた上で適切に対応していく。
- ・ 公共工事においてリサイクル資材を積極的に活用するなど、循環資源の利活用を促進していく。
- ・ 循環型社会に対応した港湾空間の形成を図るため、周辺との調和や安全性の確保に配慮していく。

(6) その他

- ・ 関係行政機関と連携しながら、港湾管理者として環境施策を推進し、良好な港湾環境を形成していく。
- ・ 多様な主体と連携した清掃活動や環境啓発など、地域で一体となって環境改善に取り組んでいく。